



建築家ヴォーリスと北星

北星学園創立百周年記念館 矢 島 あづさ

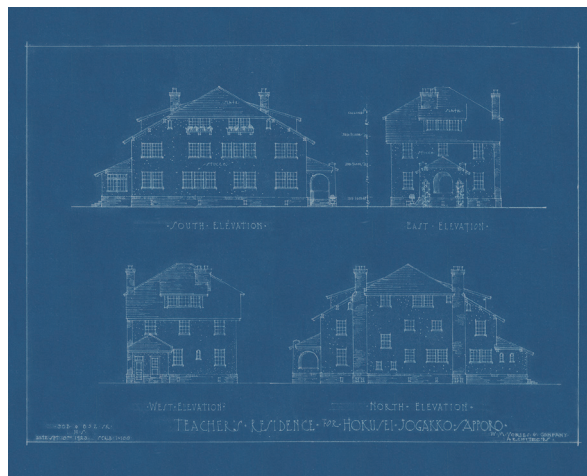
ヴォーリスの設計図

記念館には、建築に興味を持つ方の来館者も多く、札幌市の文化財を紹介する冊子やサイトに掲載されるのを見学者も増えています。

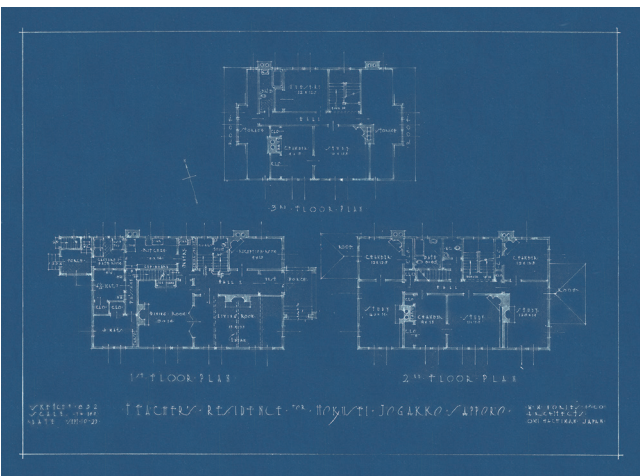
1905年に来日し、日本に数多くの西洋建築を残した米国人建築家ウィリアム・ヴォーリスの資料リストに

「北星女学校」の記載があることから、記念館をヴォーリスの設計だと勘違いされる方も少なくありません。その誤解のもとになっているのが左の設計図です。

北4西1から南5西17に北星の校地を移転する計画が出た際に、ヴォーリス建築事務所が設計した図面です。1923年に作成されてお



宣教師館立面図ヴォーリス案(1923年)



宣教師館平面図ヴォーリス案(1923年)

り、南5条校地を購入する前から検討されていたのは確かです。これを基本設計と見なす研究者もいますが、現存するヒンデル設計の宣教師館と比べてみると、煙突の数や窓の配置、間取り、ストリート

は建築家やメンソレータムを日本に広めた実業家であるとともに、スミス先生と同じ長老派の宣教師であったこと。さらに、北見市のNPO法人ピアソン会事務局長・伊藤悟氏によると「野付牛(現北見)にピアソン宣教師がヴォーリス設計で私邸を建てたのが1914年。北星の創成期を支え、宣教師たちと親交の深かったピアソン夫妻が、ヴォーリスを紹介したとも考えられます」

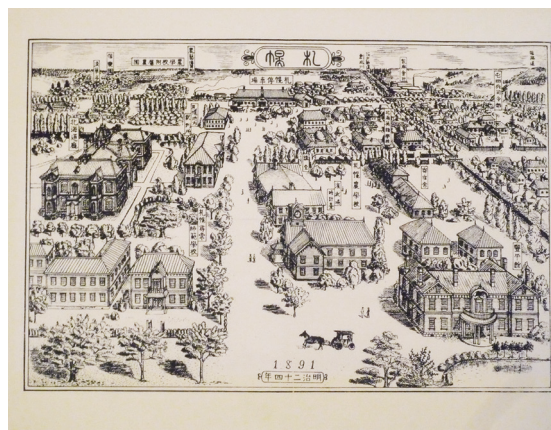
ピアソン宣教師の紹介か

スイス人建築家マックス・ヒンデルが来札したのは、北星が南5条校地を購入した1924年。先に提案されたヴォーリス案ではなく、ヒンデル案が採用されたのは、同年に建てられたヒンデル設計の札幌藤高等女学校校舎を北星関係者が見て「冬対策が優れている」と判断したからだといわれています。

それでは、関西を中心に学校、教会、病院、百貨店、住宅など、西洋建築を手掛けていたヴォーリス建築事務所に、北星はなぜ設計を相談していたのでしょうか。



左からグレイス、エバンス先生、ピアソン夫妻
キャサリン・アーベリイ。野付牛のピアソン邸で過ごした1921年の冬



千嘉子が教師としてスミス女学校に勤務した時代、
1891(明治24)年の札幌駅前通りのようす



スミス女学校に勤務していた一柳千嘉子
(公財)近江兄弟社 ヴォーリス記念館提供

ました。そして、妻の姉である一柳千嘉子は、スミス女学校に教師として勤務していたのです。

スミス先生が最初に赴任した新栄女学校(現・女子学院)を卒業した千嘉子は、英語が堪能で通訳を得意としていました。

スミス校務日誌を確認してみると、「1889年、一柳先生もまたアカデミー(女学校)の援助に来る。1891

ヴォーリスの義姉が北星に

昨年、ヴォーリス設計図の件で、公益財団法人近江兄弟社嘱託研究員・芹野与幸氏から問い合わせがありました。メールでやり取りをする中で、ヴォーリスと北星の新たな繋がりを知りました。

ヴォーリスは、華族である一柳末徳子爵の三女・満喜子と結婚し、1941年、日本に帰化して一柳米来留(ひとつやなぎ・めれる)と名乗りました。

後、米国へ留学し、帰国後、西洋婦人たちに日本語を教えたのは、北星での経験が影響したのかもしれませんが。